

令和 6 年度 施策評価表

第 6 章 『自然と調和する住みよいまち』

まちづくりの目標	まちなかにみどりがあふれ、そこに人々が集い、思わず歩きたくなる、自然と調和した安全で住みよいまちをめざします。
分野別計画・指針	所沢市都市計画マスタープラン、所沢市立地適正化計画、所沢市ひと・まち・みどりの景観計画、所沢市中心市街地街並み整備計画、所沢市住生活基本計画、所沢市マンション管理適正化推進計画、所沢駅周辺まちづくり基本構想、所沢市営住宅等長寿命化計画、所沢市建築物耐震改修促進計画、所沢市橋梁長寿命化修繕計画、所沢市横断歩道橋長寿命化修繕計画、所沢市地域公共交通計画、所沢市水道ビジョン、所沢市水道事業経営計画、所沢市下水道事業経営計画、市街地調整区域下水道整備基本計画、所沢市生活排水処理基本計画、所沢市下水道ストックマネジメント計画

第1節	土地利用
関係所属	都市計画課、市街地整備課、企画総務課

施策に対する市民満足度・要望度 ('令和5年度所沢市市民意識調査'の結果) 回答数:2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「土地利用」 地域の特性を活かし自然と調和した街づくり(土地利用)が進められている	304	13.3%	345	15.1%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	土地利用に関する施策の満足度	%	-		13.3		65

令和6年度までに65%を目指す。

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
6-1-1 計画的かつ合理的な土地利用の推進	土地利用転換の達成地区数	地区	0	2	3		2
6-1-2 所沢らしい景観まちづくりの推進	とことろ景観資源の指定件数	件	196	211	238		215
6-1-3 基地返還と跡地利用の促進	基地返還に関する要望実施件数	件	2	3	2	×	3

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
 土地利用転換については、下安松東地区(住居系)及び三ヶ島工業団地周辺地区(産業系)の計2地区において、都市計画手続きを進め、市街化区域に編入するとともに、土地区画整理組合に対して、土地区画整理法に基づく事業認可を行った。
 埼玉県が進める「埼玉版スーパーシティプロジェクト」に関連したガバメントピッチに登壇し、若松町地区の緑地保全や新旧市街地の交流促進などに向けて、民間企業と連携し、地区居住者への説明を行った。また、地域まちづくり計画の作成に取り組んだ。
 北秋津・上安松地区の区画整理事業の組合に対し、支援・助言を行い、道路築造工事及び調整池工事などの公共施設の整備を適正に進めた。
 関越自動車道所沢IC周辺地区について、土地区画整理事業の実施に向けて、区域決定のための地権者説明会や検討パートナーとの地元勉強会、IC出入口とのアクセス方法の検討、ゼロカーボン産業団地創出に向けた検討や研究を行った。
 景観施策については、「ひと・まち・みどりの景観計画」の策定(平成23年)から10年を迎えることなどから、景観審議会において具体的な改定内容について議論を行ったほか、景観資源の登録手続を着実に進めた。
 防衛施設周辺整備全国協議会、埼玉県基地対策協議会を通じて米軍所沢通信基地の返還を要請した。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 米軍所沢通信基地の返還要請については、全国及び県の協議会を通じて他自治体と連携して継続的に実施している。一方、所沢市基地対策協議会による要望活動については、所沢通信基地において突発的な事象が発生した際に要望するものであり、R5は対象となる事案がなかったため、実施しなかった。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

旧暫定逆線引き地区である下安松東地区については、区画整理組合に対し、支援・助言を行うとともに、上安松・下安松西地区については、引き続き、地元調整や都市計画の変更に向けた関係機関との協議等を進める。

土地利用転換推進エリアである三ヶ島工業団地周辺地区については、区画整理組合に対し、支援・助言を行うとともに、関越自動車道所沢IC周辺地区については、引き続き、土地利用基本構想の検討や関係機関との協議、準備組合の結成に向けて地権者などへの技術的支援を行う。

景観計画について、令和5年度に行った検討を踏まえ、大規模倉庫等大規模な産業建築物に対する配慮事項や色彩基準の創設、既存の色彩基準の更新等について部分改定を行う。

米軍所沢通信基地の全面返還の早期実現を目指して、今後も引き続き要望活動を行う。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

今後も全国及び県の協議会を通じて基地全面返還の早期実現を目指して要望活動を行うとともに、突発的な事象が発生した際には所沢市基地対策協議会による速やかな要望活動を行っていく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ 15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美 街づくり計画部都市計画担当参事 塩崎 雄 街づくり計画部土地利用推進担当参事 井口 知一
-----	---------	--------	--

第2節	市街地整備
関係所属	市街地整備課、所沢駅西口区画整理事務所、都市計画課、建築指導課

施策に対する市民満足度・要望度 ('令和5年度所沢市市民意識調査'の結果) 回答数:2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「市街地整備」 所沢駅周辺をはじめとしてにぎわい創出に向けた整備が進んでいる	915	40.1%	444	19.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	所沢駅の1日平均乗降客数	人	102,732	112,000	101,123	×	114,000

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
6-2-1	所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進	事業地区を含む周辺の居住人口(御幸町・東町・日吉町・東住吉)	人	6,594	7,797	8,206		7,800
6-2-2	安心・安全に暮らせるまちづくりの推進	土地区画整理事業による防災性能の向上を進める面積	ha	169.1	270	265.3	×	290
6-2-3	市街地整備の適正な誘導(良好な市街地整備の推進)	地区計画・建築協定等の策定地区数	地区	37	44	36	×	44

節の基本方針への取り組み状況	
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>令和3年度に策定した所沢駅周辺グランドデザインの実現に向け、社会実験「STREET PLACE CHALLENGE」、西武鉄道等と連携した「TOKOROZAWA DESIGN WALK 2023」、既存ストック活用等の街歩き勉強会「STREET PLACE STUDY」等を実施するとともに、社会実験等の結果報告や今後のまちづくりについて、地元事業者や有識者との意見交換を含めたフォーラムを開催した。</p> <p>所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めた。</p> <p>所沢駅周辺の回遊性の向上を目指し、歩行者デッキの整備工事を発注した。</p> <p>所沢駅東西市街地の一体化や、駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」の早期開通を目指し、鉄道敷地内の工事について、西武鉄道と協定を取り交し工事に着手した。</p> <p>土地利用転換については、下安松東地区(住居系)及び三ヶ島工業団地周辺地区(産業系)の計2地区において、都市計画手続きを進め、市街化区域に編入するとともに、土地区画整理組合に対して、土地区画整理法に基づく事業認可を行った。</p> <p>埼玉県が進める「埼玉版スーパーシティプロジェクト」に関連したガバメントピッチに登壇し、若松町地区の緑地保全や新旧市街地の交流促進などに向けて、民間企業と連携し、地区居住者への説明を行った。また、地域まちづくり計画の作成に取り組んだ。</p> <p>北秋津・上安松地区の区画整理事業の組合に対し、支援・助言を行い、道路築造工事及び調整池工事などの公共施設の整備を適正に進めた。</p> <p>関越自動車道所沢IC周辺地区について、土地区画整理事業の実施に向けて、区域決定のための地権者説明会や検討パートナーとの地元勉強会、IC出入口とのアクセス方法の検討、ゼロカーボン産業団地創出に向けた検討や研究を行った。</p> <p>地区計画については、住民で構成される協議会に対して街づくりアドバイザーを派遣するなどの支援を行った。椿峰地区及びフラワーヒル地区について、地域の協議会による地区計画の住民素案の策定を支援し、素案の提出を受けた。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>所沢駅の平均1日乗降客数については、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に5類感染症へ移行したことによって新型コロナウイルス感染症の流行前の数値に回復しつつあるが、流行時の対策であったテレワークの導入などのライフスタイルの変化の影響により、未達成となった。</p> <p>地区計画・建築協定等の策定地区数について(地区計画23地区・建築協定11地区・街づくり協定2地区):地区計画については、R5年度は2地区増、1地区減、建築協定は3地区減となった。また、地域の合意形成を図り地区計画策定準備を進めている地区もあるが新たな指定に至らず、地区数を増やすことができなかった。</p> <p>市街化区域への編入、土地区画整理事業の実施にあわせて防火・準防火地域の指定を行ったが、三ヶ島工業団地周辺地区において、地権者の同意状況や地理的状況により、当初予定していた土地区画整理事業の区域が縮小したことから、未達成となった。</p>	

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

所沢駅周辺グランドデザインに基づいて、公共空間の利活用に係る関係部署との組織横断的な取組や官民連携体制の構築に向けた取組を進める。

所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めるとともに、民間開発による広域集客型商業施設に対して引き続き「所沢らしさ」を求めていく。

所沢駅周辺の回遊性の向上を目指し、歩行者デッキが令和6年9月に開通できるよう整備を進める。

所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」の早期開通を目指し整備を進める。

旧暫定逆線引き地区である下安松東地区については、区画整理組合に対し、支援・助言を行うとともに、上安松・下安松西地区については、引き続き、地元調整や都市計画の変更に向けた関係機関との協議等を進める。

土地利用転換推進エリアである三ヶ島工業団地周辺地区については、区画整理組合に対し、支援・助言を行うとともに、関越自動車道所沢IC周辺地区については、引き続き、土地利用基本構想の検討や関係機関との協議、準備組合の結成に向けて地権者などへの技術的支援を行う。

地区計画については、提出された住民素案に基づき、都市計画決定のための必要な手続きを進める。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

所沢駅の1日平均乗降客数については、所沢駅西口の広域集客型商業施設が令和5年9月に開業するするとともに、東口の北秋津・上安松土地区画整理事業地内でも事業者による戸建住宅の販売が始まることによって乗降客数の上昇が見込まれることから、事業者と情報共有しながら必要な支援を行っていく。

地区計画等については、引き続き、都市計画手続きを進めるとともに必要に応じて地域の協議会に対して街づくりアドバイザーの派遣などの支援を行っていく。

市街化区域への編入、土地区画整理事業の実施とあわせた防火・準防火地域の指定に向けて、上安松・下安松西地区(約27.1ha)における公共施設の設計や農林協議など関係機関との調整を進める。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	レ 13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ 15 陸の豊かさを守ろう
レ 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナースhipで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R6.7.31	記入者職氏名	街づくり計画部次長 高野 淳 街づくり計画部都市計画担当参事 塩崎 雄 街づくり計画部土地利用推進担当参事 井口 知一
-----	---------	--------	---

第3節	道路
-----	----

関係所属	建設総務課、道路建設課、計画道路整備課、道路維持課
------	---------------------------

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果） 回答数：2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「道路」 所沢市内の道路環境は整備されている	609	26.7%	739	32.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	充実した道路環境を要望する人の割合	%	56.2	現状値未滿	32.4		現状値未滿

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
6-3-1 道路整備の推進	都市計画道路の整備状況	%	70.5		72.3		72
6-3-2 幹線道路の建設推進	幹線道路(バイパス)の整備状況	m	0		433	—	1,679
6-3-3 生活道路の整備推進	生活道路拡幅整備延長	m	—		3,444	—	4,000
6-3-4 歩行者・自転車環境の整備推進	自転車レーンの整備延長	m	770	10,474	5,525	×	12,294
6-3-5 道路環境の維持	橋りょう長寿命化修繕の箇所数	橋	2	1	1		1

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
都市計画道路北野下富線の用地取得並びに工事を進めた。また、都市計画道路松葉道北岩岡線の工事を進めた。県施行による都市計画道路飯能所沢線の建設促進を図った。
道路の優先整備計画に基づき、市道1 139号線外3路線において延長約385メートルの拡幅整備を実施した。またCJF周辺道路整備事業に伴う市道2 561号線において約132メートルの拡幅及び歩道の整備を実施した。さらに清柳橋改築事業における、周辺道路整備として市道1 900号線において、延長約83メートルの拡幅及び歩道の整備を実施した。
橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、319号橋の修繕を実施したほか、道路橋(83橋)および西武鉄道を横断する跨線橋(4橋)の法定定期点検を実施するなど、橋りょうの維持管理に努めた。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
要望の多かった通学路の安全対策に予算の重点を置き、区画線の再標示等の安全施設設置工事を実施したため、自転車レーンの整備は次年度以降に見送った。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
都市計画道路北野下富線、松葉道北岩岡線の令和6年度末の供用に向けて整備を進める。
本市の外環状道路の一翼を担う都市計画道路飯能所沢線の全線供用に向けて建設促進を図る。
歩行者の安全性及び交通の利便性等の向上を図るため、歩道の整備及び狭あい道路の拡幅、交差点の改良等を推進していく。
法定定期点検の結果に基づき、予防保全の観点から対象となる橋りょうの修繕を計画的に実施していく。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
市内の県道を管理している埼玉県および埼玉県警察とも連携を図り、自転車レーンの整備延長の延伸を図る。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	建設部次長 吉田 進一

第4節	交通政策
-----	------

関係所属	防犯交通安全課、都市計画課
------	---------------

施策に対する市民満足度・要望度 ('令和5年度所沢市市民意識調査'の結果) 回答数:2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「交通政策」 所沢市は鉄道・バス路線が充実していて出掛けやすい	791	34.7%	630	27.6%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	交通について不便と感じる人の割合	%	-	37	27.6		35

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値	
6-4-1	交通政策の推進と公共交通の充実	市内の地域公共交通(バス)年間利用者数	千人	10,734	10,794	9,194	×	10,804
6-4-2	鉄道輸送の利便性向上	市内の鉄道駅の1日あたりの合計乗降客数	千人	413	427	384	×	429
6-4-3	駅の安全性・利便性の向上	西所沢駅西口改札口開設事業の進捗度			工事・開設	基本協定締結	×	R5で開設

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
 三ヶ島地区のところワゴンについて、実証運行の振り返りや方向性についての検討を行い、令和6年4月からの本格運行に向け手続を進めた。富岡地区のところワゴンについて、令和5年5月から実証運行を開始するとともに、柳瀬地区のところワゴンの利用促進について、地元との意見交換等を行い具体的な検討を行った。
 快適なバス待ち環境の形成に向けて、ところバス、ところワゴンのバス停21か所にベンチを設置した。
 西所沢駅西口改札口開設事業については、改札口整備に向けた鉄道事業者との基本協定を締結した。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 新型コロナウイルス感染症やそれに伴うライフスタイルの変化の影響により地域公共交通(バス)と鉄道の利用者数が伸び悩み、目標値に達しなかったものと考えられる。
 西所沢駅西口改札口開設事業については、令和5年度に基本設計協定を締結し、現在は鉄業事業者により、駅舎の基本設計を作成中であり、工事の着手に至っていない。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 ところワゴンについて、柳瀬地区では、利用促進のためのルート見直し等を進める。富岡地区におけるところバスの見直しに伴うルートの新設を進める。
 ところバスについて、ところワゴンの実証運行を踏まえた運行ルートの見直しを進めるほか、利用実績やアンケート調査等を踏まえ、抜本的な見直しに向けた検討を進める。
 西所沢駅西口改札口開設事業については、駅舎の基本設計の作成を進めるとともに、駅周辺整備の一環として、主要地方道所沢武蔵村山立川線の歩道整備を進める。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 引き続き、地域の方が利用しやすい地域公共交通ネットワークの充実・整備を進めるとともに、より多くの方に利用してもらえるよう周知を図っていく。
 西所沢駅西口改札口開設事業については、駅舎の基本設計に合わせ、駅前広場の設計を市が進める。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
レ	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	市民部次長 糟谷 苗美 街づくり計画部都市計画担当参事 塩崎 雄

第5節	水道
-----	----

関係所属	総務課、経営課、給水管理課
------	---------------

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「水道」 所沢市は安全な水を安定して供給している	1,315	57.6%	420	18.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	水道事業に関する施策の満足度	%	-	100	57.6	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
6-5-1	経営基盤の強化	資産の有効活用による収益額	万円		1,304	1,136	×	1,369
6-5-2	水資源の確保と有効利用	地下水の揚水量	万 ³ /年	412	350	483		350
6-5-3	安全な水の安定供給	配水池の耐震化率	%	71.7	100.0	95.1	×	100
6-5-4	更新需要と財政収支のバランスのとれた計画の実践	経常収支比率	%	110	110	106.6	×	110

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
 資産の有効活用による収益額については、旧水道庁舎の貸付及び長期的債券(JICA債・TICAD債)による運用等により自主財源の確保に努めた。
 地下水の揚水量については、前年度と比較して配水量が増加したことから、揚水量も高い水準になったものである。
 西部浄水場1号配水池を除く配水池は100%耐震化が完了している。
 経常収支比率について、収入の根幹である料金収入が減少したが、令和4年度と比較して修繕費が減少したことに加え、電気料金下落に伴い動力費も減少したため、目標は未達であったが、令和4年度と比較すると0.19%改善した。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 施策の満足度は未達成で、昨年度と比較し下降(62.8% 57.6%)しているが、水の安定供給と災害に強いライフラインの構築を進めており、市民満足度の順位は第1位と高い評価である。
 資産の有効活用による収益額について、令和5年度は未利用地等の活用として検討されていた土地(上山口浄化槽跡地)については、土地の形状が悪いこともあり売買交渉の見込みがなく未達成となった。
 西部浄水場1号配水池の耐震化については、西部浄水場更新工事において建て替えを行う。
 経常収支比率について、新型コロナウイルス感染症の収束傾向となり外出の機会が戻り、有収水量の減に伴い料金収入が減少したことが主な原因と考えられる。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 資産の有効活用による収益額について、未利用地等の活用の可能性を他部署とも連携をとりながら継続して検討していく。
 配水池の耐震化が概ね完了したため、今後は着水井等の耐震化を実施していく。
 経常収支比率について、「所沢市水道ビジョン」及び「所沢市水道事業経営計画」に基づき、引き続き、効率化と経営基盤の安定化に取り組む。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 ○施策の満足度は未達成であるが、今後も継続的な水の安定供給と災害に強いライフラインを構築していくことの周知に努め、市民満足度のアップを目指す。
 資産の有効活用による収益額について、現在、利活用されていない未利用地について随時活用を検討し、不動産業者との協議を進めていく。また、支払準備金を預金金利の低い普通預金ではなく、比較的預金金利の高い定期預金等へ預け入れるといった資産運用による利息収入を通して収益額の増加に努める。
 配水池の耐震化について、西部浄水場更新に伴い令和18年頃に建て替え予定であるため西部浄水場1号配水池の耐震化は行わず、現在は汲み上げた井戸水を溜める着水井の耐震化へ移行しており、令和5年度の着水井等耐震化率は61.8%であり、令和6年度末には100%を目指す。
 経常収支比率について、効率化と経営基盤の安定化に取り組むとともに、適正な料金のあり方について検討を行う。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
レ	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
レ	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	上下水道局次長 根岸 清

第6節	下水道
-----	-----

関係所属	総務課、経営課、下水道整備課、下水道維持課
------	-----------------------

施策に対する市民満足度・要望度 ('令和5年度所沢市市民意識調査'の結果) 回答数:2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「下水道」 生活環境面で下水の処理に満足している	1,175	51.5%	345	15.1%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
	下水道事業に関する施策の満足度	%		100	51.5	×	100

事業目標の達成状況

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
6-6-1	自主財源の確保	有料広告用デザイン入りマンホール蓋の設置箇所数(累計)	箇所	10	60	52	×	70
6-6-2	生活環境の改善と公共用水域の水質保全	下水道普及率	%	93.7	94.7	95.2		94.8
6-6-3	災害に強い下水道整備の推進	道路雨水樹の浸透化数(累計)	箇所		720	990		840
6-6-4	下水道施設の計画的な老朽化対策	下水道管渠の更生・布設替工事延長(累計)	m	214	3,018	3,874		3,728

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
マンホール蓋広告について、広告数の出稿増加のみならず、既存広告主に引き続き広告を出稿していただけるように要綱改正を行った。また、マンホール蓋広告の視察に東京都下水道局を含め8件あり、本事業が全国に広まることで、マンホール蓋広告に対する世間の認知度も上昇し、広告の価値が高まることに期待している。
「第1次市街化調整区域下水道整備計画」に基づき、第4期整備事業として汚水管を6,332m布設した。
災害に強いライフラインを構築するため、人孔1か所及び下水道管渠222mの耐震化工事を行った。
市内各所で発生している内水被害を軽減させるため、既存の道路雨水樹210か所を浸透化した。
施設の点検・調査及び修繕・改築の計画を策定した「所沢市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、下水道の更生を859m、管内カメラ調査を26,943m行った。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
施策の満足度は未達成で、昨年度と比較し下降(57.0% 51.5%)しているが、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため、下水道整備を計画的に進めており、新たに整備された地域の住民の皆様より感謝の言葉もいただいており、市民満足度の順位は第2位と高い評価である。
マンホール蓋広告については、市内事業者約80箇所へ郵送による新料金プラン等を踏まえ営業活動を行った結果、年度末に1社2箇所の新規出稿申込があった。しかし、広告デザインやプレート制作に時間を要し、年度内の設置に至らなかったことから未達成となった。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
マンホール蓋広告事業について、新料金プランの周知に努め、広告数の出稿増加のみならず、多様な業種の広告が出稿されるよう、更なる事業の拡大を進めたく、積極的な営業活動を行っていく。
災害に強い下水道施設の耐震化に取り組むとともに、大雨による浸水被害の軽減対策を進める。
令和6年度からは、新たに策定した「第2期所沢市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、計画的に予防保全を中心とした維持管理を行い、下水道機能を持続的に確保できるよう務める。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
○施策の満足度は未達成であるが、今後も下水道施設の耐震化や雨水対策など災害に強いライフラインを構築していくことの周知に努め、市民満足度のアップを目指す。
目標値達成のため、営業活動方法の見直しも含め、継続的に新規広告主の獲得に努めていく。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに	レ	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう	レ	14 海の豊かさを守ろう
レ	6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	上下水道局次長 根岸 清 上下水道局下水道維持担当参 加藤 孝雄

第7節	住宅・住環境							
関係所属	都市計画課、建築指導課、市街地整備課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人		満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「住宅・住環境」 地域の街並みなどの住環境に満足している		925	40.5%	392	17.2%			
評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	住宅・住環境に関する施策の満足度	%		68.0	40.5	×	68.5	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R5年度目標値	R5年度実績	達成状況	R6年度目標値
6-7-1	安心・安全で良好な住宅や住環境整備の推進	長期優良住宅・低炭素建築物等計画の認定件数	件	280	250	458		250
6-7-2	適正な公営住宅の管理・運営	市営住宅の入居戸数	戸	773	785	714	×	787
6-7-3	住生活の安定と質の向上	マンション管理無料相談会における相談受付件数	件	19	38	42		42
節の基本方針への取り組み状況								
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>長期優良住宅の件数371件、低炭素建築物等計画の件数87件の計458件について認定を行い、目標値を達成した。市内の住宅等の耐震化を図るため、一戸建て住宅の耐震診断2件、共同住宅の耐震診断1件に対して補助金を交付した。所沢市営住宅等マネジメント計画策定事業では、今後の市営住宅政策の抜本的な検討に当たり、PFI、借上住宅等の民間資本技術の導入も含めた手法の比較検討、建替え方法を複数パターン設定しての比較検討など、市営住宅整備の方向性を示すものが必要となることから、令和4年度に引き続き「所沢市営住宅等マネジメント計画策定業務委託」を行い、調査報告書を作成した。</p> <p>今後の市営住宅のあり方について有識者8名の委員からなる「所沢市営住宅のあり方検討懇話会」を設置し、計3回の懇話会を開催。委員からは所沢市営住宅等マネジメント計画を整理する上での注意点や、多岐にわたる意見をいただいた。</p> <p>令和4年度に高額家賃滞納者に対する支払請求訴訟を行い、その結果、令和5年4月に市の請求を全面的に認める判決が得られた。これを踏まえ令和5年5月に強制執行申立て手続きを進めた。その後、滞納者が破産申し立てを行い、令和5年9月に破産廃止が決定した。これにより、令和6年3月に連帯保証人に対し債務の返済を要請するため北九州市の自宅を訪問し、対面での支払い督促を実施した。</p> <p>「所沢市公共施設長寿命化計画」及び「所沢市営住宅等長寿命化計画」に基づき、松郷団地1・2・3号棟の屋上防水改修及び給水等設備改修工事を実施した。</p> <p>住宅の退去修繕(10室)を市が直接発注することで入居可能戸数の増加を図った。</p> <p>「所沢市マンション管理適正化推進条例」に基づき、管理組合に対する管理状況の届出の周知を行った。</p> <p>マンション管理適正化法に基づく「管理計画認定制度」による認定を14件行った。</p> <p>管理組合に対して、「マンション管理アドバイザー派遣制度」、「専門家団体による重点支援事業」を実施した。</p>								
<p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>住宅・住環境に関する施策の満足度の未達成については様々な要因が想定されるが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行以降、住民の生活様式の変化が影響したことも要因の一つと考えられる。</p> <p>市営住宅の入居者については、長年に渡り住み続ける傾向にあることから、経年劣化などによる室内や設備等の傷み具合が激しい住戸が多く、退去修繕については、1戸当たりの修繕内容が多様化する傾向があり、修繕費用が高み時間も要することなどから、速やかに次期の募集戸数を増やすことが難しくなっている。しかしながら、市発注の退去修繕の成果もあり、多少ではあるが募集戸数は増加傾向である。</p>								

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

所沢市営住宅等マネジメント計画(素案)を作成し、令和7年度のパブリックコメントの実施を目指す。建替事業については、大規模な事業になることが予想されるため、財政面等を勘案しつつ庁内調整を図りながら事業を進めていく。また、現状、「所沢市公共施設長寿命化計画」における、建替え対象3団地(西所沢北・松郷・愛宕山団地)の取組の方向性は「長寿命化」と位置づけられており、建替え・集約化といった手法を想定していないものである。そのため庁内調整の結果、今後、建替事業についての合意形成が得られた場合には「所沢市公共施設長寿命化計画」の見直しをすべく調整を進めていくものである。

分譲マンションについて、条例に基づく各届出制度や認定制度について積極的な周知を行い、効果的かつ円滑な運用を図る。

アドバイザー派遣や重点支援事業について広く周知を行い、より多くの管理組合に支援を行う。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

施策満足度の向上については、市民のニーズやニューノーマルの生活様式に対応した住環境の整備を推進するとともに、近年増加傾向にあるマンションの管理の適正化を図るため、管理組合への支援の充実を図る。

市営住宅の管理代行を委託している埼玉県住宅供給公社と連携して修繕の内容や費用等を見直し、退去後の修繕を速やかに行うことにより入居戸数を増やす。併せて、市発注による修繕工事を引き続き実施することで入居戸数の増加を図る。また、募集住戸の入居世帯人数についても今後検討する必要がある。

SDGsへの貢献

レ	1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R6.7.31	記入者職氏名	街づくり計画部次長 高野 淳 街づくり計画部都市計画担当参事 塩崎 雄 街づくり計画部市街地整備担当参事 鎌田 実幸
-----	---------	--------	--